

滋賀県日野町

社会福祉法人わたむきの里福祉会

農福
連携



ずっとこのまちで
私たちができること

取組内容

- 環境に配慮した米作りを行い、生産した米は外部販売や事業所内での給食・高齢者配食サービス事業に活用し、地産地消を推進。
- 障がいのある方々にとっての職業技術習得機会の創出を推進し、就労という目標に向けての個々のステップアップを促進。

取組に至った経緯

- 耕作放棄地が地域の課題となっており、広い農地を必要とする稲作中心の農業を行うことが、課題解決になると考えた。

取組の成果(受賞等)

- 農地の借受面積は、約0.5haから約11haに増加。(H17～R6)
- 甘酒やポン菓子、漬物等の製品を開発し、6次産業化に取り組む。
- 第2回近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定。
- 第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会にて金賞受賞。
- 農業を通じて地域住民の方々との交流機会が増え、作業者のやりがいや充実感が増大。



法面の除草作業（環境に配慮した農法で、人の手で丁寧に作業）

今後の展望

- 「ノーマライゼーションのまちづくり」の経営理念に基づき、社会福祉法人の枠を超え、地域の人と資源が繋がりに地域課題を解決する「地域共生社会づくりの実践」を目指す。
- 当面は、地域課題である耕作放棄地の解消と地域活性化のため、稲作を中心に環境に配慮した農産物の生産を続け、特に米のブランド化に取り組む。

京都府京都市・久御山町

株式会社しんやさい

農福
連携

得意なことを伸ばすことで
障がい者と共に農福連携を実現



取組内容

- 障がい者に配慮した職場環境の実現を目指し2022年4月に法人化。農福連携技術支援者(農業版ジョブコーチ)の資格を取得し、農福連携に取り組む。
- 九条ねぎを中心に、聖護院大根、京ラフラン、みずき菜等を生産・販売。
- 美術能力の高い障がいのある社員が、インパクトのあるデザインの商品POP、農作業マニュアル等を作成。
- 認知症高齢者や身体障がい者等に対し、手押し車や車いすでも収穫体験ができる環境を整備。

取組に至った経緯

- 起業時に障がい者雇用の難しさを経験したことから、より相手の立場に立つことの重要性を認識し障がい者雇用に取り組む。

取り組む際に生じた課題と対応

- 障がいのある社員の提案により、作業の指示内容を図で視覚化するなど、作業者(障がい者)にわかりやすく工夫して、働きやすい環境づくりに取り組む。

取組の成果(受賞等)

- 障がいのある社員が企業在籍型職場適応援助者(企業在籍型ジョブコーチ)及び農福連携技術支援者の資格を取得し、支援する側として活躍。
- ノウフク・アワード2023 優秀賞受賞

今後の展望

- 今年度、生まれつき視覚に障がいのある学生のインターンを受入れたのを機に、障がい者が農業を学べる場の提供や農家とのマッチングなど、就労に繋げるサポートをより充実させたい。



多品目野菜



社員と農業改良普及センター共作のマニュアル

農福連携

障がい者と共に「作る喜び」・
「働く喜び」・「生きる喜び」
を積みながら、美味しい野菜
づくりを目指す

大阪府大阪市

株式会社舞洲フェルム



中野 友明代表取締役



埋立地に並ぶハウス



取組内容

- 異業種から参入し、就労継続支援A型事業所として障がい者を雇用し、非農地(埋立地)において施設園芸を行う農福連携の都市型モデル。
- 12種類の野菜を水耕栽培により生産し、ホテル、レストラン、小売店等へ直接販売するとともに、いちごの観光農園も開設。

取組に至った経緯

- 障がい者の雇用に当たって、成果が目に見える仕事の方がやり甲斐を感じるのではないかと考えていたところ、野菜の水耕栽培を行う大阪府内の農福連携の事業所を見学した際に「これは面白い」と感じ、会社を設立。

取り組む際に生じた課題と対応

- 収支改善が事業開始時からの課題であったが、観光農園の収入や福祉関係の支援等により改善。
- 障がい者への向き合い方が難しかったが、個性に見合ったシフトを組んだり、作業マニュアルを作成するなど、障がい者が働き続けられる環境づくりを実践。

今後の展望

- 「作る喜び」、「働く喜び」、「生きる喜び」の創造と障がい者の社会参画への貢献。
- 今後もすべての農作物を農薬不使用で栽培し、安心・安全な野菜を年間を通じて安定供給するとともに、観光農園にも力を入れていく。



野菜の出荷作業



観光農園のいちご

大阪府大阪市

街かどめぐり にしなり
よろしい茸工房

農福
連携



農福連携の都市農業で
地域の活性化を目指す

取組内容

- 自社工場産の菌床でしいたけを栽培し「よろしい茸」として販売。農薬や殺虫剤、雨水は使用せず、マイナスイオンを含んだ電子水のみを使用して栽培しており、「大阪産(もん)」に認定。栽培や収穫、選別から出荷等の一連の作業を分割しており、障がい者や高齢者等の働き手に応じた作業が可能。
- 消費地に近く、輸送の距離や時間が短い都市型農業のメリットを活かし、しいたけの鮮度を保ったままスーパーマーケットや飲食店等に出荷。また、よろしい茸工房に併設した直売所でも販売。
- 自社産しいたけを使った加工品(乾燥しいたけ、芽しいたけのアヒージョ、魔法の粉(しいたけパウダー)等)の開発や、きくらげも栽培。

取組に至った経緯

- 平成16年に、障害者の支援を行うためNPO法人「街かど福祉」が設立され、平成24年に障がい者福祉サービスを開始。平成28年に、障害者や高齢者等が一般企業への就労を目指して働く場として、「街かどめぐりにしなり よろしい茸工房」を設立し、働き手の個性に合ったいろいろな作業があるしいたけの菌床栽培を開始。

取り組む際に生じた課題と対応

- 農業は、障害者が働きやすい環境を整えることができるが、単に人材・労働力として雇用するのは難しい。一人一人の特性を理解し、それに合った指示をする必要があるため、福祉の知識を有する人材を現場に配置。

今後の展望

- 「よろしい茸」のブランド化と経営拡大で自社の雇用を増やし、障がい者の自立支援をしながら大阪府の障がい者雇用率の向上に貢献していきたい。



自社産しいたけの加工品

大阪府和泉市

株式会社いずみエコロジーファーム

農福
連携

食品廃棄物から作った堆肥で野菜を生産



代表取締役社長 渡邊 治さん

取組内容

- 株式会社いずみエコロジーファーム（以下「エコロジーファーム」という。）は、小松菜などの野菜を生産しており、農福連携の取組として、障がい者を正社員として雇用。
- 大阪いずみ市民生活協同組合（以下「いずみ生協」という。）の特例子会社である株式会社ハートコープいずみが、いずみ生協の店舗から出た食品残さを堆肥化。その堆肥を活用してエコロジーファームが生産した野菜は、再びいずみ生協の店舗や宅配で販売する「食品リサイクル・ループ」の取組を実践。

取組に至った経緯

- エコロジーファームは、いずみ生協の関連会社で同グループの「食品リサイクル・ループ」の一翼を担う農業生産法人として農作物を栽培。障がい者の一般就労を支援する就労継続支援A型事業を行い地域社会に貢献。

取組の成果（受賞等）

- 障がい者は全員正社員で、13人が一般就労に移行。
- 「大阪産（もん）」の生産・販売で地産地消に貢献。2023年度は小松菜43万袋、キュウリ13万袋を出荷。
- 令和元年に大阪初・全国で5事業者目となる「ノウフクJAS認証」を取得。
- 令和3年にノウフクアワード2021優秀賞を受賞。

今後の展望

- 農福連携に取り組む事業者と、より一層の情報共有を図る。
- 岸和田市に新たに購入した農地で露地葉物野菜等を栽培し、障害者の雇用も拡大する。



【ノウフクJAS商品（小松菜）】



【60棟のハウスで小松菜等を栽培】

大阪府泉南市

ハートランド株式会社

農福
連携

農福連携の
パイオニア



取組内容

- 社員20名のうち、8名の障害者を雇用。栽培基準の見える化や作業経過、次に定植する場所を張り紙等で表示するなど、作業ミスを減らし、効率よく仕事ができるように工夫をしている。また、個々の適性を見極めた職務配置を行い、それぞれが自分の役割に自信をもち、主体的、積極的に仕事に取り組める明るい職場づくりを心掛けている。
- 地域の就労継続支援B型事業所とも連携し、施設外就労の場として年間延べ約3,000人を受入れている。

取組に至った経緯

- 平成18年にコクヨグループの特例子会社として設立。平成19年、特例子会社では国内第一号の農業生産法人として認可を受け創業。

取組の成果(受賞等)

- 令和5年度「農業電化推進コンクール」大賞(農林水産省農産局長賞)受賞。
- 平成26年度、第1回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例に選定。
- 平成21年度、「大阪府ハートフル企業顕彰」ハートフル企業大賞(知事表彰)受賞。
- 生産されたサラダほうれん草は、大阪エコ農産物の認証を取得。

今後の展望

- これからも大阪府のハートフルアグリ(農と福祉の連携)ネットワークと連携・協力をしながら、障害者の自立、農業分野での活躍を支援していきたい。



個人の適性に
応じた作業に従事

兵庫県稲美町

JA兵庫南

農福
連携



環境にやさしい商品を全国展開へ

完成した大麦ストロー

取組内容

- JA兵庫南では、①就業支援・マッチング、②福祉事業所支援員向け研修会の実施、③農福マルシェの「農福連携プロジェクト」を推進。
- 「大麦プロジェクト」と題して、東播磨特産の大麦を活用し、障がい者が選別・調整作業を行い、令和6年度は、28,000本を活用してストローや工芸品を製造。

取組に至った経緯

- JA兵庫南は西日本でも有数の六条大麦の産地で、収穫後に残った麦わらの処分方法を検討していたが、茎を活用した天然素材のストローを商品化することにより、プラスチックゴミの削減を図ることが環境にやさしいと考え、これに取り組んだ。

取り組む際に生じた課題と対応

- 当初、JA兵庫南直売所「にじいろふぁーみん(稲美町)」にて販売。現在はECサイトで全国販売。
- 六条大麦の収穫タイミングを間違えると麦わらの劣化を招くことから適期収穫が肝要。

取組の成果(受賞等)

- 兵庫県東播磨産大麦の茎を原料にした地産地消。
- 農福連携を通じた地域おこしへの挑戦(農家・障がい者・JA・消費者)。
- 環境にやさしい自然素材の商品。2022年度グッドデザイン賞受賞。

今後の展望

- 商品化に成功した大麦を使用したフィンランドの伝統工芸品「ヒンメリ」セットを活用し、六条大麦ストローの認知度を高め消費拡大を図る。
- ヒンメリを使用した新商品の開発により、更なる消費拡大を図る。



奈良県奈良市

社会福祉法人青葉仁会

農福 連携

地域再生・活性化の取り組み



取組内容

- 社会福祉法人青葉仁会(あおはにかい)は、高齢化や過疎化が進行し、急速に荒廃林・耕作放棄地が増加している奈良市東部地域において、農福連携の取組により、地域の再生・活性化及び持続可能な農山村地域づくりを目指している。
- ブルーベリーの収穫体験など、参加者の手を借りて農作業を行うことで労働力を確保するとともに、利用者との交流を促進。

取組に至った経緯

- 教育者として特別支援学校で教鞭を執ってきた理事長は、障害を持つ生徒たちが卒業後も生活できる場が必要との思いから、授産施設の経営を開始。



稲刈り

取組の成果(受賞等)

- 十数年前から作付けしているお米「青葉仁米」(コシヒカリ)が、外部の評価機関が行う2018年度米・食味分析鑑定コンクール国際大会において「プレミアムライセンスグッドファーマー」認定を受賞
- ノウフク・アワード2020 審査員特別賞
- ノウフク・アワード2023 グランプリ



ブルーベリー

今後の展望

- 荒廃林・耕作放棄地等地域の負の課題となったものを、これまでとは違う視点で新たな資産としての再生を目指し、「荒廃していく地域」を持続可能な形に再生していくことを目的とし、農福マルシェなど地域の活性化及び持続可能な農山村地域づくりを目指す。

和歌山県紀の川市

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて

農福
連携

農福連携の取組で、中山間地農業の社会的課題の解決に挑む



取組内容

- ソーシャルファームもぎたては紀ノ川農協とともに、「平和で持続的な地域社会をつくる」ことを共通理念とし、農業の担い手の減少と増加する荒廃農地等の社会的課題の解決に向けたビジネスモデルとして開所。
- 紀ノ川農協が運営する直売所「ふうの丘」の顧客開拓に向け、野菜等の地元産品を使ったメニューを提供するカフェの経営、休耕地を中心とした借入地で有機玉葱、加工用トマト、ミニトマト、唐辛子、大根などの野菜や、キウイフルーツ、レモンの栽培に取り組む。
- 近隣農家から、じゃばらの加工を請け負うほか、グルテンフリー食品として注目される α 化米粉の製造とお菓子開発では原材料にこだわった和歌山県産のお米を使用するなど、農業の6次産業化に貢献。
- 地域の農業振興と利用者のスキル向上を目的として、和歌山市内のローカル食品店と連携し、 α 化玄米粉、 α 化玄米パン粉を製造し、食品店オリジナルの米加工品開発をサポート。

取組に至った経緯

- 紀ノ川農協が開催した日曜青空市に参加したことがきっかけで、同農協が平成13年に開設した直売所内に障がい者が働けるカフェを併設するなど、協同関係を構築。
- ソーシャルファームもぎたては、平成26年4月に就労継続支援A型事業所として設立し、援農隊として活動していた前身団体から、カフェの経営などの事業を継承。



農産物加工の様子

取組の成果(受賞等)

- ノウフク・アワード2021 優秀賞

今後の展望

- 農業部門の収益性を向上させるため、自社栽培米を米粉に加工し、カフェでのグルテンフリースイーツや農園ピザなどを構想中。
- 6次産業化に向けた新たな米粉製粉所を検討中。

和歌山県有田川町

社会福祉法人 有田つくし福祉会 早月農園

農福 連携



荒廃農地を活用した農業生産で
地域に根差した農福連携を推進

取組内容

- 早月農園は就労継続支援B型事業所として平成24年4月に開設。事業所は旧早月小学校の廃校施設を利用。
- 中山間地域で増加する荒廃農地を活用し、経営耕地面積を拡大(令和4年時点で約5ha)。温州みかん、はっさく、南高梅、山椒等の果樹、ししとう、なす、たまねぎ等の野菜を生産し、農協、直売所等に出荷。施設利用者の作業のしやすさへの配慮と売上向上を図るため、少品目栽培を推進。
- 近隣農家が生産した果物を使用したジャムを商品化するなど、6次産業化に取り組むことにより、目標であった月当たり平均工賃3万円を実現。
- 地域交流を目的としたサロン「喫茶はやつき」の定期開催や高齢者を対象にした無料の弁当配達を開始。

取組に至った経緯

- 内職やパンの製造・販売を中心とした作業所を運営していたが、農作業にはセラピー効果や健康増進効果が期待されること、さらに新たな利用者の受入を図るため、農福連携の取組を開始。

取組の成果(受賞等)

- ノウフク・アワード2022 優秀賞
- 近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回)選定

今後の展望

- 地域の障害者、高齢者、農家、その他関係者と協力し、課題を共有しながら地域に根差した農園運営に引き続き取り組む。
- 施設利用者の経済的な自立に貢献するため、平均工賃4万円/月以上の継続達成を目指す。
- これまで5名が一般就労しており、今後も継続して一般就労を支援していきたい。



温州みかんの収穫

農福連携

滋賀県長浜市

NPO法人つどい

出会ったご縁を大切に



取組内容

- 約3haの広大な農地にハスを栽培。「あいのたにロータスプロジェクト」と名付けて、地域の高齢者、障がい者など何かしらの理由で社会とつながりにくい人と共に活動。
- ハスの生花を京都市内の高級料亭やリゾートホテルへ出荷する他、ジャムや干し芋等の加工品の開発・販売により、年間を通じた作業を実現。

取組に至った経緯

- 地域で耕作放棄地が目立つようになったことから、その解消のため、福祉農園としてスタート。

取り組む際に生じた課題と対応

- 生産物の安定的な売り先を見つけることが課題となるが、地域や人とのつながりを大切にすることで、多くの方々の支援を受け、活動の幅を広げている。

取組の成果(受賞等)

- 令和5年度「ディスカバー農山漁村(むら)の宝(第10回)ビジネス・イノベーション部門」選定及び特別賞「蓮と里山の景観賞」を受賞。
- 平成29年度近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝(第1回)」に選定。

今後の展望

- 儲かる農業、選んでもらえる作業所となることで福祉部門の担い手も育ち事業も続いていく。多くの方や企業とつながりを持ち、様々な取組を企画して次世代に引き継いでいきたい。



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」受賞

京都府亀岡市

NPO法人 障害・高齢者就労
支援センターLINK'S(リンクス)

農福 連携

障がい者が開く未来の農福連携



取組内容

- 2014年にリンクスを立ち上げ、2016年に就労継続支援A型事業所の認可を受けて障がい者雇用を開始。
- ブルーベリー、万願寺とうがらし、加茂なすなどの京野菜、キクラゲ、シイタケの生産・販売のほか、亀岡市の有機米プロジェクトに参加し、無農薬・無化学肥料による米の生産を行う。
- 菌床キクラゲ・菌床シイタケは有機JASの認証を受けており、使用後の菌床を堆肥にし畑の土づくりに利用するなど、環境に配慮した取組を行う。また、堆肥は近隣の農業者に提供している。

取組に至った経緯

- 障がい者が農作業に従事することで、適度な運動と達成感が得られ生活リズムの改善が進むことから、農福連携に取り組む。

取り組む際に生じた課題と対応

- 農家の高齢化により、近隣の直売所等に野菜等を出荷することが困難になってきている状況を改善するため、自法人が中心的な役割を果たし、野菜等の集荷事業に取り組んでいる。

取組の成果(受賞等)

- 令和5年度 近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回) コミュニティ・地産地消部門に選定

今後の展望

- これまで障がい者雇用等に取り組んできた経験、知識を生かし、障がい者を雇用する企業に対して、農業実習や営農指導を行うなど、農福連携の取組を広める。



有機JAS認証を受けた菌床シイタケ



イベント出店の様子

大阪府高槻市

NPO法人たかつき

農福
連携



園芸療法で、生きがいづくり

取組内容

- 介護保険施設であるデイサービスセンターにおいて、施設に隣接する7aの農地に加えて、4.5aの遊休農地を借りて畑として活用し、認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくり、健康維持・増進に向けた園芸療法を実施。
- 施設利用者の約9割強が「自分の畑 ※」を持っており、スタッフと相談しながら野菜等を育てている。
※「自分の畑」は、施設利用者が作業しやすい高さ(約60cm)に合わせて木枠で作られている。
- 認知症を抱える施設利用者は、意欲低下が著しく、日常的にあまり動かないことが多いが、「自分の畑」を持ち野菜の手入れをすることで、収穫の頃には畑までの往復歩行が習慣化し、利用当初に比べて歩く距離が増え下肢筋力の低下予防につながっている。

取組の成果(受賞等)

- デイサービス利用者の年間延べ人数は、2001年の2,400名から、2022年には5,580名へ増加。
- 近隣の遊休農地を活用することで農地の維持に貢献。
- ノウフク・アワード2023 チャレンジ賞

今後の展望

- 高槻市と協力して、より良い取組を実施できたらと考えている。
- 「地域の荒廃農地を使ってほしい」という相談もあり、地域の荒廃農地を活用することで地域貢献をしたい。
- 介護保険施設の運営とともに、川で遊んだり畑で作物を育てたりするなどの親子で参加する子ども向けの自然体験活動を行っており、今後、自然体験の活動スペースを増やしたい。



石神洋一代表理事



自分の畑

奈良県橿原市

一般財団法人
かがやきホーム

農福
連携



誰もが地域の
一員となる
社会実現に向けて

取組内容

- 法務省と連携し、罪に問われた者等の社会復帰の支援を目的とし、刑務所出所者を直接雇用する全国で初めての取組。
- 就労の場や住居を提供、アンガーマネジメントや心理的アプローチ、一般教養等の社会教育を通じて社会適応能力の向上を図っている。

取組に至った経緯

- 罪に問われた者等が、国の刑事司法手続きを離れた後、地域において就労の場や住まいの確保など円滑な社会復帰を進めることができる支援体制が十分に整っていなかったことを背景に、令和2年4月に奈良県が更生支援推進のための条例を制定。
- 同年7月に県が全額出捐して、「一般財団法人かがやきホーム」として設立。

取組の成果(受賞等)

- 令和5年度「ノウフクアワード2023」チャレンジ賞
- 研修先の林業の団体や福祉施設等への就労に繋がった。
- 令和4年から、出所者が、1年目にねぎ栽培の農業就労の技術を修得し2年目は派遣労働という形態で、就労経験を積んでいる。



地域の社会貢献の取組も行っています

今後の展望

- 国の司法行政と地域の福祉をつなぐ役割を担い、就労の場づくりを行うことにより、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として活躍し支え合う社会の実現を目指していく。

滋賀県多賀町

社会福祉法人杉の子会

農福 連携

障がいをもつ子供たちの受け皿に



取組内容

- 無償で借りた耕作放棄地に、ビニールハウスを2棟設置し、当会職員の指導のもと花苗の育成を年間作業として取り組んでいる。花苗は、無人販売所、電話注文を受けて販売するとともに高速道路のサービスエリア等で花壇整備にも活用。
- 滋賀県の事業である「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に取り組んでいる「多賀にんじんクラブ」と協定を締結し、除草・収穫などの共同作業を行い、そこで出荷できなかった規格外のにんじんを活用して、「杉の子ブランド」として乾燥にんじんに加工し販売。
- 地元・高取山に自生しているクロモジ(クスノキ科の香木)の抗菌作用を活用し、スプレーやディフューザーを作成し、ECサイト等で販売している。

取組に至った経緯

- 町内の養護学校を卒業した子供たちの受入先が必要と考え、平成15年に現在の法人を立ち上げ、「就労継続支援B型」、「生活介護」、「放課後デイサービス」、「グループホーム」の4事業を展開。

取り組む際に生じた課題と対応

- 作業所利用者の作業賃金が低いため、杉の子作業所としての自主事業を確立し、作業賃金の改善を目指す。

今後の展望

- 空き家を利活用しグループホームを立ち上げ、「障がい」を身近に感じてもらえる仕組みをつくり、地域住民と相互理解を進め、地域の中で誰もが安心・安全に暮らしていけるようにしたい。



規格外からできた多賀にんじんのチップ

京都府京田辺市

三休合同会社

農福
連携

農業を通じ、障害者と地域の
ハブを目指して



取組内容

- チャリティーアパレルブランド会社JAMMIN合同会社の農業部門を分社化し、障害者が働く就労継続支援B型事業所で、京田辺市内外から障害者を受入、農福連携の取組を開始。
- 約150aの畑を借り受け、万願寺とうがらしやハーブなどを栽培。ハーブは三休が運営するカフェでハーブティーとして提供するほか、ティーバッグに加工して直売所やカフェで販売を行っている。
- ビール会社や和菓子屋とコラボし、ハーブ入りビールやマカロンを開発を行う。

取組に至った経緯

- 障害者をメンバーと呼び、支援される側でなく、農業における担い手不足の解消や耕作放棄地の解消等、主役となって地域で活躍する側になれる可能性を追究し続けている。

取り組む際に生じた課題と対応

- 農業経験がなかったため、農業者に栽培方法を教わり、それを障害者と一緒に実践する形で農業経験を積んだ。

取組の成果(受賞等)

- ノウフクアワード2022フレッシュ賞を受賞。
- 京田辺市における地域貢献企業2024を受賞。
- 市民交流や障害者の社会的自立を支援する場として設置された「京田辺クロスパーク」の指定管理者と就労支援事業者の橋渡し役である「一般社団法人京田辺みんなの働くプロジェクト」運営に参画。

今後の展望

- 地域イベント等を通じた地域連携強化と加工品等の販路拡大を目指す。
- 障がい者が一般就労に挑戦できる環境整備を行う。



地域イベントの企画やハーブビールの企業コラボ等、様々な活動を実践

